

おわりに

本研究の課題は、第1には、教授コミュニケーション研究をノンバーバルコミュニケーションに拡大し、教師のコミュニケーション能力開発のためのトレーニングプログラムを整理することだった。そして、第2は、教師活動に焦点化したスーパービジョン、すなわち教育学的スーパービジョン開発に着手し、教師のコミュニケーショントレーニングを教育学的スーパービジョンに統合することだった。この研究に着手してみて、この課題の大きさと意義をより深く確認することができたのは、大きな成果であった。

この成果をあげることができたのは、ひとえに、コミュニケーショントレーニングの実験的实施に快く参加してくださった先生方と学生たちのおかげである。トレーニング参加者はトレーニングを経験して、「トレーニングはおもしろい」、「経験をとおして学習するのわかりやすい」などの感想を述べてくださった。このトレーニング参加者の好意的な感想に、大いに励まされた。トレーニングに参加してくださった皆さんに、この場を借りて感謝申し上げたい。

また、本研究の成果をまとめるにあたって、資料の整理を手伝ってくれた大阪教育大学社会科教育学専攻の学生と院生にも感謝したい。とりわけ、教育学的スーパービジョンのワークシートを整理できたのは、大学院1回生の今津直己さんと木村雄介さんのおかげである。

本研究をとおして、多くの先生方が授業改善への意欲を持ち、日々努力されていることを知ったことは、大きな喜びだった。それゆえ、教師になった当初の教育目標と教職への意欲を、長い教職生活の中で、予期し得なかった何かの原因と条件のもとで、失いかけている先生方への支援が緊急に必要であることも痛感した。

本研究は、一定の成果をあげることができたが、継続研究として残された課題も多い。その課題は本報告書に明記したが、この課題を達成するためには、継続的に教師に同伴し、授業観察するための一定の時間的条件が必要である。そのように考えれば、専門家としてのスーパーバイザー養成がまず必要なのかもしれないと考え出している。継続研究をどのような手順で進めるかについては、さらに検討を要することである。

最後にもう一度、本研究に協力していただいた方々に感謝して、報告を終わる。